

新納骨堂建設にあたって

背景と願い



現在の納骨堂は昭和42年12月に竣工。当時、鉄筋の建物は半永久的に保つと思っていたようです。数年前に大修理しましたが、54年経過して鉄筋そのものが傷んで建替えは必須でした。



建設時の挨拶状には「ふるさとに納骨堂を作ろう」と記載されています。当時からは世相も変わり、目先の利害を優先するようになってきましたが、お骨は物ではなく、納骨堂は歴史を背負った「いのちをいただく場所であり、単なる建物ではありません。宗教上の施設です。」

新納骨堂の加入をためらっている方にも何らかの形でお寺で受け入れるための形を作りたいと考えています。

今の若い第2世代は、父母の第1世代がこの犀川の地を離れて既に故郷ではなくなっているかも知れません。しかしまたその次の第3世代はどこが故郷になるのでしょうか。「故郷喪失」とは、先進工業国ではすでに半世紀以上も前に言われていたことです。

「私はどこから来てどこへ行くのか」、欲の中で何もわからぬまま自我に振り回されて命終わってゆくのか。そのような問いが漠然とした不安というかたちで現代人の心を悩ませます。人間本来の「故郷」が求められ、今後そのような要求はますます切実になるでしょう。

だからこそ、真に応答するほんとうのことが求められています。またそのための施策や施設、組織の改編も必要になるでしょう。

建設委員会委員

建設委員会委員は、12名で構成される。

役職	建設委員会委員氏名	上高屋区内 / 区外
相談役	念信寺住職	-
委員長	大庭 誠司	上高屋区内
副委員長	持田 末男	上高屋区内
副委員長	村上 知則	上高屋区内
会計	白石 博山	上高屋区内
監事	坂本 綱代	区外
監事	江口 肇	区外
委員	中野 正壽	上高屋区内
委員	緒方 義則	上高屋区内
委員	村上 正夫	上高屋区内
委員	荒尾 修	区外
委員	西村 幸吉	区外



納骨堂建設委員会役員

具体的には納骨堂建て替え、永代供養墓建設、本堂伽藍の整備、遠距離でのリモート法事、法座の充実等です。
この度の新納骨堂建設がそのような宗教事業の一環として門信徒やそれ以外の方々の深い要求に応え、心を掘り起こすご縁になればと念じています。



これまでの経緯

- 二〇一八年 建設後50年以上経過し、老朽化したため今後のことを管理組合で話し合う。
 - 二〇一九年1月 アンケート(シミュレーション)をもとに、補修か建て替えか)
 - 二〇二〇年アンケート結果をもとに、建て替える検討
 - 二〇二一年
 - 4月10日納骨堂管理組合総会、アンケート結果の報告と業者見積もりの報告
 - 6月26日臨時総会
- 納骨堂の建て替えについて、残金の扱いについて決議
これまでの組合は解散
□8月22日新納骨堂建設のための総会
納骨堂建設委員会の結成
建設委員の選任
□建設は「飛鳥社寺」、納骨壇は「はせがわ美術工芸」に決定
□竣工は二〇二二年三月末予定

納骨堂建設にあたって



株式会社 飛鳥社寺
代表取締役 阿部直樹

株式会社飛鳥社寺について

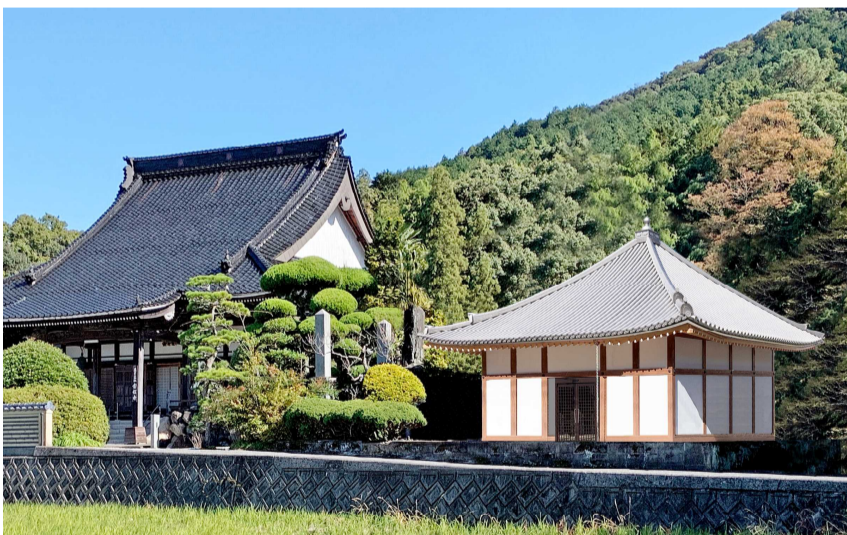
福岡県太宰府市に本社を置き、社寺建築を専門とする設計施工会社。
伝統的な木造社寺建築だけでなく、境内地に計画する建物であれば鉄骨造・コンクリート造などの構造を問わず、お寺様のご要望に応じて建築法規に準拠した伽藍を設計施工できる能力を有する「社寺建築専門の小さなゼネコン」。
本堂・鐘楼・山門・納骨堂や庫裏会館などの新築計画だけでなく、それぞれの改修工事を含めて多数の工事実績があります。
ホームページ <https://asukashaji.co.jp/>

念信寺様新納骨堂について

令和4年春に建立します念信寺様新納骨堂は、「木造耐火建築物」という近年に制定された建築法規を運用した建物で、木造の納骨堂としては九州で数例しかない仕様によって建築確認申請を行います。

新納骨堂の

室内は、明るく広くなってお参りしやすくなり、また、出入口に斜路を設置することで車椅子に対応したバリアフリーとなっています。



完成予想CG

納骨の形式

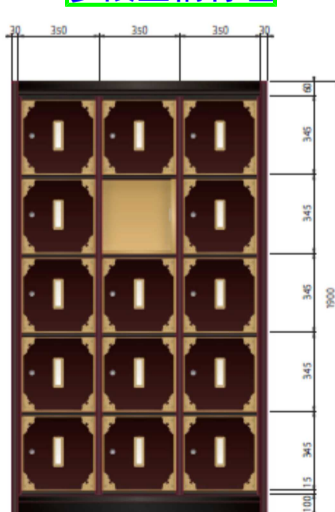
建築法規に準拠した使い勝手の良い建物を、境内地に相応しい伽藍として計画することで、近年建立された鐘楼堂と共に、境内地の伽藍を整える役割に寄与できるのではないかと考えております。

一段型納骨壇



- 納骨壇は一段型は棚が3つあり、6寸の骨壺は6個、5寸は12個収納。75万〜80万円の予定。60区画
- 納骨堂加入者はオプショんで永代合葬墓に優先的に入れます。

多段型納骨壇



- 多段型は一区画に骨壺6寸2個、5寸2個入ります。11〜18万円の予定。25区画



